

支部だより

300人集い盛況

東京支部では、総会参加数が平成20年度は110人、同21年度は230人、今年300人以上の予想と毎年、急増しています。これは総会以外にユニークな分科会が発足し、特に若者世代、中年世代中心の集い

や親睦会が活発に行われているからです。今年度の行事は次の通り。

5月8日(土)、目黒の雅叙園で「30sの会」(30~39回生の親睦会)開催。40歳代の同窓生が集い、卒業後20~30年になる高校時代の学年を越えて懐かしみ親睦を深めました。5月14日(金)、銀座で「アランダ133の会」が開催。学年幹事の33回生が中心となり、

33回生以降の学年幹事と懇親を深め、総会に向けての士気を高めてくれました。同日、「40sの会」(40~49回生)では30歳代の交流も深まりました。5月22日(土)、原宿で学生会・大同窓会を開催。昨年は150人参加で盛況でしたが、今年もさらに大盛況。参加の新大生から「先輩方が東京で活躍されていて頼もしい」や「筑紫丘卒業で本場に

良かった」など、嬉しい声も。7月2日(金)には、神保町・学士会館で総会が開催されます。「笑顔」をテーマに新たな交流とこれまでの深い交流が共に交わり、きつと活気に満ち溢れた総会・親睦会になるでしょう。これまで足が遠のいていた方もぜひ、参加頂きたいと思えます。また本部・関西支部との連携によって、福岡を出て関西

関東で活躍する卒業生や転勤の方への連絡網も充実してきました。福岡で、関西で、関東で、筑紫丘同窓会を全国規模で盛り上げて、同窓会の益々の発展とともに「日本をいざ造らん！」。(高11 浅島曠士)

来年で設立10周年

今、猛烈に悩んでいます。来年は支部

設立10周年。何か後々に残せるものは？ 芸術、学術はまた芸術などの講演・公演？ どこかに旅行に出かけては？ いやいや、いつもの総会で…。これ見よがしの発想ではなく、熊本にも「筑高同窓会」があるよ！ 一回来てみてごらん。「面白かばい」。要するに「筑高同窓会」の存在を知ってもらい、「一つの校章の下

に集う魅力溢れるモチベーションは？」と、目下検索中。何か、素敵なヒントを！ さて、当支部は平成14年、吉武和美氏(高2)を初代支部長に選出、支部会員の記載数200人(現在の有効登録数133人)からスタート。その後、毎年6月に支部総会を開催しています。初回から30ないし20人前後会員の参加をいただき、楽しく賑々しく

開催しています。このように継続して開催出来ている背景には、吉武初代支部長のご指導や、活動のアジト(鳥料理「那由多」)かくれんぼ横町)の便宜を図って頂いている稲留穂現支部長(高14)、総会等支部行事の際、賞品などを提供して下さる(株)シアーズホーム会長丸本隆則氏(高2)、そして会運営全般にわたって適切な提言を欠かさない有蘭猪一郎氏(中14)などの諸先輩、役員をはじめ、多くの会員の皆さんから寄せられる同窓会への情熱の賜物です。勿論、支部設立から今日まで親身にご指導頂いた当時の同窓会本部会長や事務局長ほか、歴代スタッフの皆様のご指導とご援助があったからこそ。心より感謝申し上げます。今後も、会員の憩いの場・集いの場となるような支部を願って活動を続けたいと思えます。(高6 今村豊)

竹野トミ子。旧姓岡田。86歳。稲築の生まれ。昭和25年3月~58年3月の33年間、筑紫丘高校の体育教員を勤めた。生徒は「女ターザン」「小番犬」と呼び親しんだ。茫茫半世紀余、フラッシュバックしたセピアの記憶を辿る。(敬称略)

福岡に出た。電車の窓に展開する田園牧歌な四辺の景。その中に三層の校舎が輪奐(りんかん)の美を見せて屹立し、トラックには手入れの行き届いた芝生が萌えていた。これらが筑高へ移る決意を固めていった。

軍隊帰りの生徒

昭和24年5月、飯塚市吉原町にある私立飯塚高女の校長室。アボなしの対談。筑中体育教師の梶山彦三郎は、のっけから岡田に「筑高にぜひ来てほしい。男子高だが、女子の生徒が入って来て体育を教える先生がいらない」。咄嗟の転勤話。岡田は耳目を聳動(しようどう)させた。

岡田は飯女から東京・日本女子体育専門学校を出た。育ててくれた学校に恩義がある。それだけに気持ちの整理がつかず、即答を避けた。

だが岡田の心中には微妙な透き間風が吹いていた。若いだけに雑務もさせられ、生徒に対して教師としての役目を十分に果たせていない。これが梶山との間の温度差を縮めていった。

問もなくして体育館に卓球台が運び込まれ、女子生徒が(きつきょう)した。翌日謝りに来た生徒もいる。「先生、悪うございました」と頭を下げるのを、岡田は男の子の態度は立派だなあ、と感じ入った。

あの時この人、追憶の青春

宅。翌日そのまま登校した生徒もいて、教員の方が喫驚(きつきょう)した。

内田は移転反対運動が抗えない潮流にあったとみて、右往左往する教職員を尻目に素早くギア・チェンジ。トラックを手配。凜乎(りんこ)とした懸河(けんが)の弁で、大



塩原校舎現 九大芸術工学部

朝倉中学、小倉師範の卒。元陸軍少尉で昭和14年、宗像高女から筑中に来た。若い



竹野トミ子さん

岡田は27年に結婚。二人の男の子をもうけた。野間八幡の裏に住み学校に近かった。夫婦共働きで、二人の子どもは教員室で遊んだ。内田は子

一列目の生徒をあてて「わかりません」。その列の後ろの生徒に「次」と指名、再び「わかりません」。この間、斎木はうなずきを下げたまま

「壁」と囁きたて、やがて大合唱に。斎木はやつと頭を上げた。擲擲(ていていて)と知り

高宮から来ていた生徒がいた。いたずらばかりしていた。集会には出ない。竹野が追いかけると、男はきまって音楽

どもを抱いてバレエの授業を見せたりした。教員室は温かい雰囲気満ちていて、学校で育ったといえる。内田が逝った時、二人は父親といち早く駆けつけ葬儀を仕切った。カベと、解答を教える先生 斎木仁は英訳を生徒にさせていた。

小柄なのに大きな靴を履く「チャップリン」こと藤野不二男は、中学修猷館、東京美校の出。23年、柳井商業や山門高女を経て、筑中に。美校では洋画の小磯良平と同期。ギャグ漫画家の赤塚不二夫とも親交を持っていた。

二代目の校長志和繁猪は、「斗酒猶辞セズ」のタイプだが、胆はいたって小さかった。高知県の出身で、田川や三池、嘉穂各中学や同高校長をした。昼休みに数人の女子生徒がおしゃべりをしながら通ると「こらっ」と廊下に出て怒鳴る。竹野が昼休みなで大目に見てくれ、と言ってもきかなかつた。

7年間いて31年に退職し、筑高と道一つ隔てた博多工業高に移る。が、同校に行かず筑高にばかり来ていた。子どもはいず、家人は疾病を治そうと祈禱(いのち)を続けたが、縊死する悲劇の末路に終わる。(大倉

近況

此られるたび恩師の顔が 原 秀樹(高33回)

ラグビー部だった高校時代、太りたくても太れなかった体は今、痩せたくても痩せられない、典型的なメタボになっでしまいました。考えてみると、今までの人生の中で「もつと太れ！」と人から言われたのは高校時代だけでした。最近では人間ドックに行くと先生に怖い顔で注意されます。すると、なぜか門田先生を思い出します。誰かから怒られたりすると、つい、あの四角い顔が思い浮かびます。